

Jeanne Moreau

portraits de femmes libres

du 10 au 19 janvier 2025
à l'Institut français de Tokyo

ジャンヌ・モロー 自由な女性たちの肖像
監督作品&出演作品

2025 1.10 [金] ▶ 19 [日]

* 金・土・日の開催

主催・会場: 東京日仏学院



美しく、力強い眼差しと一度聞けば決して忘れることのできない声の持ち主であり、ヌーヴェルヴァーグからブニュエル、オーソン・ウェルズ、ファスピンダー、オリヴェイラまで、70年もの間、現代映画を牽引する監督たちのミュージズであり続けた偉大な女優ジャンヌ・モロー。彼女の映画への情熱と好奇心に満ちた創造力は、「映画監督」としても発揮されていました。70年代から80年代にかけて作られた、女性（たち）をめぐる素晴らしい3本に、クリント・イーストウッドのインタビューを特別に加えたジャンヌ・モローの監督作品を紹介します。また女優としての多才な魅力を堪能できる5本の出演作もあわせて上映し、女優と映画作家との間を往来しながら映画を果敢に変革していったアーティスト、ジャンヌ・モローの軌跡を辿ります。

ジャンヌ・モロー監督作品

Films réalisés par Jeanne Moreau

リュミエール *Lumière* [1976年/フランス/102分/カラー/デジタル]

監督・脚本:ジャンヌ・モロー

出演:ジャンヌ・モロー、ルチア・ボゼー、フランシヌ・ラセッ、キャロリーヌ・カルティエ、ブルーノ・ガンツ

サラ、ラウラ、ジュリエンス、キャロリーヌ。4人の「女優」たちの欲望、葛藤、そして連帯が鮮やかに描かれる監督第一作。モローが主演。タンゴを革新した作曲家アストル・ピアソラが音楽を担当。

「モローの初監督作の主題は、女性の自由と、それを獲得し維持するための、苛酷さである。それは優しさをもって表現されるが、容赦のない用心深さによって勝ち取られ、維持されたものだ」(ニュー Yorker)。



© 1976 FONDS JEANNE MOREAU POUR LE THÉÂTRE, LE CINÉMA ET L'ENFANCE. TOUS DROITS RÉSERVÉS

思春期 *L'Adolescente* [1979年/フランス/94分/カラー/デジタル]

監督・脚本:ジャンヌ・モロー

出演:レティシア・ショヴォー、シモーヌ・シニョレ、フランシヌ・ユステール、ジャック・ヴェベール、エディット・クレヴェール

戦争の影が迫る1939年。フランス中部の村で12歳のマリーが母、祖母と共に過ごした。マリーは村にやってきた若き医師に恋をするが――。

「この映画では子供から女性への不安定な通過点、意識が目覚める瞬間、大人の言葉が暗号のように見えるのではなく、明確になる瞬間を描きたい」(ジャンヌ・モロー 同作企画書より)。



© 1979 FONDS JEANNE MOREAU POUR LE THÉÂTRE, LE CINÉMA ET L'ENFANCE. TOUS DROITS RÉSERVÉS

リリアン・ギッシュの肖像 *Lilian Gish* [1983年/フランス/59分/カラー・モノクロ/デジタル]

監督・脚本:ジャンヌ・モロー

出演:リリアン・ギッシュ、ジャンヌ・モロー

1983年の夏、ニューヨーク。サイレント映画期から活躍し、ハリウッドの頂点を極めた偉大な女優リリアン・ギッシュとの邂逅。「歴史的女優」との対話から、その生涯と映画への情熱に迫る至高のドキュメンタリー。「リリアン・ギッシュは私に、偉大な女優であることだけが重要なのではなく、偉大な人間であることも同じくらい重要なだと気づかせてくれた。リリアンはまさにその両方を兼ね備えている」(ジャンヌ・モロー)。



© 1983 FONDS JEANNE MOREAU POUR LE THÉÂTRE, LE CINÉMA ET L'ENFANCE. TOUS DROITS RÉSERVÉS

クリント・イーストウッドとの対話 *Entretien avec Clint Eastwood*

[1994年/フランス/22分/カラー/デジタル]

監督:ジャンヌ・モロー

出演:ジャンヌ・モロー、クリント・イーストウッド

1994年カンヌ国際映画祭の審査員長クリント・イーストウッドにインタビューすべく画策するジャンヌ・モロー。俳優であるとともに監督であるふたりは、互いに敬愛の念を示し、お互いの映画の中の曲を口ずさんだりしながら映画における音楽や子どもの重要性について語り合う。貴重なドキュメンタリーを日本語字幕付で初上映。



映画のアトリエ「ジャンヌ・モロー 反逆のスター」 Atelier cinéma « Jeanne Moreau, une star insoumise »

講師:坂本安美

ジャンヌ・モローはなぜカメラを手にし、初の長編映画を撮ろうと思ったのでしょうか? しかも1970年代という、女優にとって前代未聞の時代に。それは自由への渴望、矛盾への嗜好、そして何よりも、満たされるに違いないほどの強い希求からでした。貴重なドキュメンタリー映像や、作品の抜粋をまじえてその軌跡をたどりながら、女性として、女優として、映画作家として、ジャンヌ・モローのその類まれなる魅力、才能に迫ります。

ジャンヌ・モロー出演作品

Films avec Jeanne Moreau

死刑台のエレベーター *Ascenseur pour l'échafaud* de Louis Malle

[1958年/フランス/92分/モノクロ/HDリマスター版]

監督:ルイ・マル

出演:ジャンヌ・モロー、モーリス・ロネ、ジョルジュ・ブージュリ、リノ・ヴァンチュラ、ジャン＝クロード・ブリアリ

ジュリアンは社長夫人のフロランスとの不倫の果てに、夫を自殺に見せかけて殺害。完全犯罪を成し遂げたかに思えたところ、エレベーター内に閉じこめられてしまう。ルイ・マル監督が弱冠25歳で手掛けた犯罪サスペンスの傑作。マイルス・デイヴィスの即興セッションが流れる中、連絡の取れない愛人を探して、愛情と疑いを胸に夜のパリをさまようモローの姿は美しく、あてどなく街を彷徨する現代的女性として、多くの映画人、映画ファンの記憶に刻まれる。



© 1958 Nouvelles Editions de Films

天使の入江 *La Baie des Anges* de Jacques Demy

[1963年/フランス/85分/モノクロ/35mm]

監督・脚本:ジャック・ドゥミ

出演:ジャンヌ・モロー、クロード・マン、ポール・ゲール

パリの銀行員ジャックは同僚の影響でギャンブルに染まり、厳格な父から勘当され、ニースへ。通称“天使の入江”のカジノに通い、ある日いわくありげなブロンドの美女ジャッキーと出会う。ギャンブルに魅せられた男女の、エレガントでデカダンな夏の逃避行を描く愛のドラマ。南仏のひとけのない海岸、アイリスから広がるジャンヌ・モローの姿、それはミシェル・ルグランのテーマ曲を従えながら、永遠に続くカメラの後退運動によってやがて路上のうちに消え去る。



© MK2

不滅の物語 *Une histoire immortelle* d'Orson Welles

[1968年/フランス/58分/カラー/デジタル]

監督:オーソン・ウェルズ

出演:ジャンヌ・モロー、オーソン・ウェルズ、ロジェ・コジジオ、ノーマン・エシュリー

盟友ジャンヌ・モローを迎え、「バベットの晩餐会」で有名なデンマーク出身の女性小説家イサク・ディーネセンの短編を映像化したオーソン・ウェルズの完成された長編としては最後期の作品。マカオの裕福な商人クレイは架空の物語を自分のものになしよとし、若い女ヴィルジニーが選ばれる……。マドリッドにあるウェルズの自宅とその近郊で撮られていて、音楽にはエリック・サティの楽曲が用いられている。



© Gaumont

ケレル *Querelle* de Rainer Werner Fassbinder

[1985年/西ドイツ＝フランス/108分/カラー/デジタル]

監督:ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー

出演:ブラッド・デイヴィス、フランコ・ネロ、ジャンヌ・モロー、ローラン・マル

ジャン・ジュネの『 prestesの乱暴者』を映画化したR・W・ファスビンダー監督の遺作となったドラマ。大西洋に面した街・prestesを舞台に、若くたくましい水兵・ケレルを巡って巻き起こる男たちの性と暴力に満ちた愛憎を描く。娼館の女将を演じる華麗なるモローが美しい歌声とともにそのカオスの中で決然と存在している。



© Gaumont

奇跡にあずかった男 *Le Miraculé* de Jean-Pierre Mocky

[1986年/フランス/87分/カラー/デジタル]

監督:ジャン＝ピエール・モッキ

出演:ミシェル・セロー、ジャンヌ・モロー、ジャン・ポワレ

非合法すれすれでなんとか暮らす気ままなバビュは、保険金欲しさに事故で足が麻痺したと偽り、献身的な元娼婦のサビヌを引き連れてルルドへと偽の治癒旅行に出発するが……。社会風刺、反聖職者主義的劇画を超えて、不条理で詩的なアイデアで溢れる驚くほど豪快な本作は、多種多様な人々を鮮やかに浮かび上がらせており、その中でモローはコメディエンヌとしての才能をいかんなく発揮している。



© Studio Canal

上映スケジュール
Calendrier

1.10 [金]	14:15	思春期 <i>L'Adolescente</i> [94分]
	16:30	リュミエール <i>Lumière</i> [102分]
	19:00	天使の入江 <i>La Baie des anges</i> [85分]
1.11 [土]	13:15	死刑台のエレベーター <i>Ascenseur pour l'échafaud</i> [92分]
	15:45	奇跡にあずかった男 <i>Le Miraculé</i> [87分]
	18:00	思春期 <i>L'Adolescente</i> [94分]
1.12 [日]	11:00	リュミエール <i>Lumière</i> [102分]
	13:30	死刑台のエレベーター <i>Ascenseur pour l'échafaud</i> [92分]
	16:00	映画のアトリエ「ジャンヌ・モロー 反逆のスター」 (講師:坂本安美) Atelier cinéma par Abi Sakamoto : Jeanne Moreau, une star insoumise
	18:15	奇跡にあずかった男 <i>Le Miraculé</i> [87分]
1.17 [金]	16:30	不滅の物語 <i>Une histoire immortelle</i> [58分]
	18:30	リアン・ギッシュの肖像 <i>Lilian Gish</i> [59分]+ クリント・イーストウッドとの対話 <i>Entretien avec Clint Eastwood</i> [22分] 計81分
1.18 [土]	12:00	不滅の物語 <i>Une histoire immortelle</i> [58分]
	13:30	リュミエール <i>Lumière</i> [102分]
	16:00	リアン・ギッシュの肖像 <i>Lilian Gish</i> [59分]+ クリント・イーストウッドとの対話 <i>Entretien avec Clint Eastwood</i> [22分] 計81分
	18:00	ケレル <i>Querelle</i> [108分]
1.19 [日]	11:30	天使の入江 <i>La Baie des anges</i> [85分]
	14:00	ケレル <i>Querelle</i> [108分]
	16:30	思春期 <i>L'Adolescente</i> [94分]
	18:45	リアン・ギッシュの肖像 <i>Lilian Gish</i> [59分]+ クリント・イーストウッドとの対話 <i>Entretien avec Clint Eastwood</i> [22分] 計81分

入場料金:一律1,100円 ★映画のアトリエのみ一律1,500円(全席自由/整理番号順)

Peatix(<https://peatix.com/group/34395>)にて12/20(金)12:00より発売。

*窓口販売はございませんのでご注意ください。上映開始15分前開場:上映開始10分後以降の入場はご遠慮ください。



「ジャンヌ・モロー、自由な女たちの肖像」

主催・会場:東京日仏学院 助成:CNC

協力:カルロッタ・フィルム、エスパース・サロウ、ゴEMON、アイ・ヴィー・シー、キングレコード、MK2、Punkte、タマサ・ディストリビューション、ザジ・フィルムズ

Jeanne Moreau, portraits de femmes libres

Organisé par : l'Institut franco-japonais de Tokyo, Avec le soutien de : CNC
merci à Carlotta Films, Espace Sarou, Gaumont, IVC, KING RECORDS,
MK2, Punkte, Tamasa Distribution, Zazie Films.

会場・お問い合わせ:東京日仏学院

〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15

tel:03-5206-2500 fax:03-5206-2501

www.institutfrancais.jp/tokyo

IFJTokyo

institut_tokyo

institut_tokyo

